

箱根神社に建つ親鸞聖人像

神奈川県足柄下郡箱根町 箱根神社境内

戦後の昭和39年8月、箱根神社の境内（箱根権現の楚石付近）に親鸞聖人像が建てられた。太平洋戦争の末期に学徒動員で多くの大学生等が戦場に花と散った。

国内においても、空襲等で犠牲となった学生達も多数にのぼった。これらの戦没学生を供養するために、日本大学教授で全国教授連盟理事長であった、小松雄道氏を中心となって全国の大学総長、学長等に呼びかけて、殉国学徒英霊奉賛会が結成された。

全国から有志による寄付が集められ「親鸞聖人慈悲の像」を「殉国学徒慰霊の像」として建立された。なお、親鸞聖人像は「鏡の御影」を模像建立されたものである。

毎年8月2日に「戦没学徒追悼法要」として、東京築地の本願寺から導師を招いて、箱根神社が執り行っている。



箱根神社に建つ親鸞聖人像